

新入職員の初期研修における仕事への意欲の変化とイベントについて

◎及川 祐子¹⁾、三浦 ひとみ¹⁾
東京女子医科大学病院¹⁾

<背景>

新入職員の研修は施設により様々であるが、今年度当院では新入職員を直接配属と、集中的に研修を行う初期ローテーションに分けて研修を行った。また、採血に関しては当院では基本的に全ての検査室が業務に携わっているため、新入職員全員が採血研修を行った。

<目的>

今回、新入職員が研修を行う中で、仕事に対する意欲やモチベーションがどのように変化していくのかを捉え、今後の新入職員研修に活かしていくことを目的とした。

<方法>

対象：令和5年度の新入職員12名（初期ローテーション7名、直接配属5名）

期間：令和5年5月～8月

入職後1ヶ月毎にアンケートを行い、仕事に対する意欲やモチベーションの変化と、その要因となるイベントにつ

いて調査した。

<結果>

配属部署での業務習得や採血業務で患者さんから褒められることで、前向きに仕事に取り組んでいた。また逆に、知識・技術不足を感じたり、患者さんに指摘を受けたりすることで、モチベーションが低下していた。全体的に見ると、採血業務に関することでの変化が多く、患者さんとの関わりで受ける影響は大きいと思われた。毎月定期的にミーティングを開催して follow up は行っていたが、研修中の気持ちの動きを捉え、その要因となったイベントを把握したうえで follow up することで技術の習得・向上に繋がると考える。

東京女子医科大学病院 中央検査部
03-3353-8112 (38531)